

## V60a TMT計画アップデート

家正則、山下卓也、柏川伸成、青木和光、秋田谷洋、高見英樹、臼田知史、児玉忠恭、観山正見(国立天文台)、山田亨(東北大)ほかTMT推進者一同

TMT計画の実現に向けた内外の進捗状況を報告する。まず、2010年8月13日に公表されたUS Decadal Survey Astro2010では、全米科学財団NSFが速やかにTMTかGMTかの選択を行い、25%レベルでの出資が勧告された。これを受けて、長官以下幹部体制が一新されたNSFは2011年に行う評価選択スケジュールの検討を進めている。10月にはNSF主催の会議があり、NSFの関連幹部と直接非公式に会談する機会があった。

中国国家天文台とインド天文学連合がTMT計画への参加意向を表明しており、カリフォルニア大学、カリフォルニア工科大学、カナダ天文学大学連合、日本国立天文台を含めた六者協議を隔週行い、パートナーの役割分担や今後の日程調整の検討を進めている。役割分担協議では、約600枚におよぶ主鏡セグメント鏡の製作分担、望遠鏡本体構造の製作分担などの合意形成を検討中であり、予備合意書の署名に向けて、権利と義務の明確化の検討を続けている。

国立天文台ではフルサイズ非球面セグメント鏡の試作、TMT第三鏡駆動装置の検討、TMT観測装置計画への日本側分担提案のとりまとめなどに全力投入中であり、これらの状況を踏まえて、日本学術会議からの支援報告書の改訂と連動しながら、計画実現に向けて努力中である。